

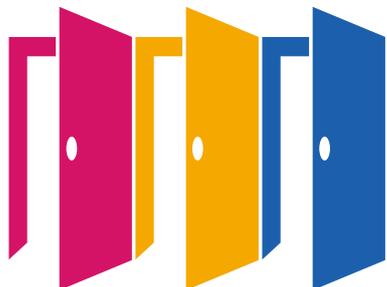
Rotary



# 白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリーテーマ

2020～2021年度クラブ目標

## 『35年目の再構築 ロータリーの源流へ』

会長 吉野敬之  
幹事 堀田一彦



# 第1635回例会

令和2年9月3日 (12:30～13:30)

○ソング

- 国歌 (君が代) ●奉仕の理想

○ビジター

- 県南分区ガバナー補佐 遠藤武士様 (矢吹RC)

○スマイルBOX

- 矢吹RC 県南分区ガバナー補佐 遠藤武士様 (突然メーキャップします。プログラムの多い中、スピーチします事申し訳ありません。今後も御協力をお願いします。)

- 吉野敬之会長 (遠藤県南分区ガバナー補佐ようこそ。GKB開催に御尽力頂いた委員会ははじめ関係者の皆様ありがとうございました。ホームミーティングにおいては親睦委員長ならびに委員会メンバーの皆様、設営ありがとうございました。)

- 堀田一彦幹事 (遠藤ガバナー補佐ようこそ。金田パスト会長、安部パスト会長卓話ありがとうございました。)

- 金田昇会員 (遠藤ガバナー補佐ようこそ。誕生プレゼントありがとうございます。)

- 永野文雄会員 (ガバナー補佐・遠藤様ようこそ。GKB野球の成功おめでとうございます。雑誌広報委員会の皆様卓話ありがとうございます。)

- 石部辰雄会員 (年は取りたくありませんが、お祝に感謝します。)

- 富永章会員 (誕生祝いありがとうございます御座居ます。これからもよろしくお願ひ致します。)

- 宮本多可夫会員 (遠藤武士県南分区ガバナー補佐、ようこそおいで下さいました。)

- 青木大会員 (先日のゴルフでバーディーを3個取ったのでその分スマイルいたします。本日は娘の大学の入学式の為欠席とさせていただきます。)

### ▶第1635回例会出席状況 (R2年9月3日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	25名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	12名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	37名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	56
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	66.1%

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

# 本日のプログラム

## ■会長の時間

吉野敬之会長

皆さん、こんにちは。暑い日が続いておりますが、ここ最近暑くというより非常に蒸し暑く6月のようなじめじめとした何日が続いておりますが、台風が来ているようでございます。その中、今日も元気にご参加いただきました皆さん、出席いただきましてありがとうございます。まず初めに、今日はお客様のご紹介させていただきたいと思っております。県南分区ガバナー補佐でございます遠藤武士様でございます。遠藤ガバナー補佐は、今日はガバナー補佐の公式ということではなく、矢吹クラブのメンバーとして、皆さんに知っていただきたいことがあるということでお越しいただきましたので、その辺のところを後程教えていただければと思いますので、よろしくお願いたします。今年度も2か月が経ちまして、はや9月となりました。白河では本来であれば提灯まつりがあります。もう今の時期、9月に入りますと町のあちらこちらで太鼓の音や笛の音が子供たちが練習する音が聞こえてきて、夜になれば夜空には先達を練習する各町内の先達提灯が夜空に浮かび上がり非常に幻想的な夜を醸し出すというのが、この白河の2年に一度の幻想的な風物詩でございます。皆さんもご存じのように、今年はコロナの影響によりまして、6月には中止ということが決定しておりまして、生粋の白河で育てお祭りに関わってきたような人達は非常に寂しいなというふうな思いをしておりますが、これも感染症のせいかなと思われ我慢しているところでございますが、先日そんな中CKB改めGKBが28日29日、両日またがりまして開催されました。当初、やはり6月7月の時点ですね、コロナ感染が拡大しているということで開催が危ぶまれていたんですが、開催に向けてご協力いただいた実行委員会の先生方、及び大会関係者の方々のご尽力によりまして無事開催にこぎつけました。わたくし初日の、開会式行われないので始球式だけ来てくださいということで、始球式と翌日の閉会式で賞状を渡すという話だったんですけど、なんか一言講評してくれということでお話させていただきました。ちなみに、始球式ではデッドボールはいたしませんでしたので。今年は随分コントロールが良くなったので大会がないのが残念ですが。子供たちは非常に嬉しそうな顔をしていました。暑い中、真っ黒に日焼けして汗まみれ泥まみれになりながら、あの顔を見るとやはり開催できて良かったなとつくづく思いますし、こんな中でもああいうふうに関係にこぎつけられるんだなというふうな点では非常に勇気をいただきました。本年度、当クラブは35周年ということで、当初からいろいろな事業の計画をしたり、来年に向けては式典懇親会開催ということを描いておるわけですが、確かにこのような情勢の中、開催に向けては障害もあるかなとは思いますが、やっぱりああいうふうな熱意を持って当たればきちんと開催ができ、開催したあかつきにはやはり皆さんに笑顔届けられるというふうなことを、私先日見まして非常に勇気が出てまいりました。これから各委員会、実行委員会の皆様が来年度の35周年式典懇親会、その間にあります記念事業に向かってまたこれからいろいろ頑張っていたらと信じておりますが、是非諦めず私たちもそれを見習って各種行事を頑張っていきたいなというふう感じた次第でございます。本日は月初めの例会ということで、非常に内容が濃く盛りだくさんでございますので、会長の時間は以上とさせて、最後に1点

だけ。先日、ホームミーティングのご案内させていただきました、ホームミーティングの設営していただきました親睦委員会の皆様、本当にありがとうございます。それと、その後のご案内させていただきましたコロナ対策ということで三密を避けましょうということをご案内させていただきました。やはり、公式行事の一つでございますので、飲食の場で万が一ということがあってはいかかなものかということで、先輩のほうからアドバイスをいただきました。こういうふうなアドバイスをいただいたりしながら、会の運営というのはしっかりやっていたらというふう非常にありがたく感じたことも併せてご紹介させていただきます。それでは、今日の会長の時間は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

## ■幹事報告

堀田一彦幹事

- 国際ロータリー第2530地区2020-21年度ガバナー事務所：地区資金内訳書
- 国際ロータリー日本事務局経理室：国際ロータリー日本事務局経理室より2020年9月RIレポートのお知らせ
- 国際ロータリー日本事務局業務推進・IT室：基本的教育と識字向上月間リソースのご案内
- 国際ロータリー日本事務局：財団室NEWS 2020年9月号
- ロータリーの友委員会委員長 一般社団法人ロータリーの友事務所代表理事 鈴木宏：新型コロナウイルス感染症に関する友事務所対応の件（8報）
- 一般社団法人比国英会バギオ基金会長 多田宏：「バギオだより」配布のお願い
- 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会事務局長 柚木裕子：奨学生・学友証明書送付の件
- 国際ロータリー第2530地区2020-21年度ガバナー事務所：補助金送付の件
- 福島県クリーンふくしま運動推進協議会県南地域協議会会長 山下勝弘：令和2年度福島県クリーンふくしま運動推進協議会県南地域協議会定期総会について（通知）

## ■委員会報告

### ○親睦委員会

櫻岡敏之委員長

- ・誕生日  
石部辰雄会員  
富永章会員  
金田昇会員
- ・結婚記念日  
鳴島三夫会員



### ○雑誌広報渉外委員会

池田浩章副委員長



皆さん、こんにちは。「ロータリーの友」の読みどころを紹介させていただきます。まず、横組み3ページに「IR会長メッセージ」ということが載っております。続きまして、今月は基本的教育と識字率向上月間となっており、また「ロータリーの友」の月間ということで、7ページから特集が組まれております。読むことに加え、感じて、自分の考えを言葉や文章で表せるようになることが大切。さらには、インターネット上に不確かな情報が

あふれる現代の状況から、正しく情報を選択できるかどうかとも問われる時代になってきたというようなことが書いてございます。続きまして12ページは「ロータリーの友月間」ということで、新しい交流をということで投稿をしてみませんかということで、4つの方法がございましてといたことが書いてあります。続きまして、20ページには「侃々諤々」ということで、意見を交換するコーナーということで投稿が書いてございます。続きまして、28ページにはロータリー米山記念事業が書いてございます。続きまして、縦組みのほうでございまして4ページ「変態が改革する多様性社会」ということで、立命館大学の出口治明さんという方が書いております。大変面白いことが書いてありますので、よく読んでいただきたいと思っております。変態が未来をつくるということで、まず一言で言えば個性を伸ばすこと。二つ目は、その子の好きなことを最後までさせるということでございまして。三つ目は行動してなんぼ。そのほか、ためになる事が書いてございますので読んでいただければと思います。

#### ■本日のお客様

○2020-2021年度県南分区ガバナー補佐

遠藤武士様



皆さん、こんにちは。会長さんに公式訪問を4回するというようなことを申し上げたんですけど、今日はそうじゃなくて私の個人的な感想というようなものをちょっと時間を拝借したと。その前にこちらのクラブで前回、会長幹事会、また今度のガバナー歓迎会において多数出席していただくことになっております。お礼を申し上げます。今日、皆さんに私のほうにこの白河西さんから今年の年次計画書いただきまして、中を拝見させていただきました。これの24ページですね。国際ロータリー2530地区福島県系譜図というページがございまして。その中でちょっと申し上げたいことがございまして。この一番最初は、郡山ロータリークラブが50周年の時の記念誌の時、発行したこれの出だしなんです。その実行委員長がうちの父安一郎\*が実行委員長として努めました。そういうふうな関係で今ちょっと聞いたんですけど、こちらが発足した年に郡山ロータリーが50周年というふうなことの年齢になりますね。そういうふうなことがあったのか、今、広報の方がこの「ロータリーの友」を抄読しましたが、このロータリーにおいての地道な毎週の例会の中での一貫として、郡山ロータリークラブの第一例会は今日広報の方がやった雑誌の抄読をします。そういうふうなことを85年やっています。そういうことを私聞いておりますので、こちらは真面目にやっていただくようになったなと思っています。矢吹ロータリーは残念ながら駄目です。まあ、そういうことで。米山さんが昭和11年、郡山ロータリークラブ発足した前の年から数度にわたりおいでいただきました。その時の接待係とか話し相手として私の父がそのたびにしているというふうなことの関係がありまして、敗戦後、東京ロータリークラブが再発足した時、郡山ロータリーもそのあと再発足したわけですけども、今申し上げたように郡山においてはうちの父が米山さんと繋がりが一番深かったものですから、戦後の東京ロータリークラブの手嶋さんというガバナーやった方がいるんですけども、そういう方々から福島県において父に対して東西南北の市ですね。福島、若松、いわき、平、白河、そのクラブ創設をするようにという要請をされまして、そういう関係で今の4クラブ全部うちの父が関わっております。そういうふうなことで最初申しあげた

ようなこの系統図ができました。その中でちょっと私がおかしいなというふうなもの何か所もあるものですから申し上げますけれども、一番上ですね。仙台と福島の関係、これは全然ありません。その次、東京と会津若松これも関係ございません。その次、東京といわき平の関係、これもありません。3か所ですね。そのほかに別なクラブのほうを見ましたら、福島と会津若松が棒線で引っ張ってあるというふうな系統図があるの。これもどういう方々がこういうふうなことの棒線を引いたのかわかりません。一つ一番申し上げたこと、その中で仙台と福島の関係なんですけども、父が50年の実行委員長の時、仙台ロータリークラブのお二人の社主がおいでになって手土産持っておめでとうというふうなことを私の自宅に来たというのは私覚えておりますので、仙台が福島に対してやったというふうなことはちょっと不可思議だなというような感じをします。また、東京と会津若松の間ですね。これもちょっとどうい関係で棒線引っ張ったんだかわかりません。ということは私、若松の50周年の時、父と一緒に行きましても、その時東京ロータリークラブに対しては感謝状というのを渡しておりません。そういうふうなことをあるとちょっとこの棒線の引き方もおかしいなと。その次、東京といわき平ですね。これも父が戦前からの繋がりがある常磐交通の社長の野崎さんですか、あとは諸橋さんという金物屋さんなんですけど、そういうふうな方々。あといわき平から出た最初のガバナーさん、その方々とは戦前からの付き合いがあるというふうな関係でいわき平の発足の時もそういうふうなことがあったものですから、その時も今言った東京からというのは発足して半年、一年後には東京ロータリークラブとの繋がりがいろいろとあったと思うんですけども、そういうふうな関係で付度して棒線を引っ張ったのかと。そういうのちょっとわかりません。そういうふうなものが私が承知して父から聞いた話と同時に郡山ロータリーの50周年の記念誌の中が一番の原点であるということをご承知おきいただければなと、そういうふうなことで今日はちょっと時間いただきまして、簡単ではありますがこういう席をお借りしましてよろしくお願ひします。

\*父・遠藤安一郎氏 郡山RCチャーターメンバー

#### ■本日のプログラム

雑誌広報委員会担当例会

○雑誌広報委員会

村上堅二委員長

皆さん、こんにちは。今日は、雑誌広報委員会の担当例会となっております。もちろん雑誌広報委員会として「ロータリーの友」の重要性を是非知っていただきたいと思って今日は開催させていただきます。卓話として金田パスト会長と安部パスト会長をお願いしておりますので、よろしくお願ひいたします。初めに、安部先生のほうからよろしくお願ひします。

○安部和夫会員



こんにちは。久々の登壇でちょっと緊張しておりますけれども、5分間という短い間ですけどもお話させていただきたいと思っております。私が何故この卓話に選ばれたかということ、去年多分この「ロータリーの友」雑誌広報委員会の委員長ということもあったと思っております。「ロータリーの友」についてちょっとお話ししたいと思います。「ロータリーの友」の歴史といいますかそれは、1952年に

日本のロータリーが東西に分かれるということで、このまま分かれるのは寂しいということで統一した雑誌を作りたいということで、日本の地区大会で別れた時にこの地域が「ロータリーの友」を発刊するということが決まりました。1958年の1月が第一号になります。それから、1回もこれが休刊になることなくここまで来たんですが、残念なことに今年のコロナにおいて合併号という形でひと月だけ省かれたということで、そういう歴史がございます。それから、その時に縦組みにするか横組みにするかという話があります。今現在、お手元に皆さんあると思いますが両方兼用しておりますけども、その当時侃々諤々とやりまして、じゃあどちらにするんだということで全員にアンケートを取ったそうですね。全員にアンケートを取って三分の二くらいが横組みということで、1952年の話ですから戦後間もない時期ですよ。その時に横組みというのは本当に画期的な話でありまして、ロータリアンはちょっと新しいの好きといたしますか先見の明があったのかなということでもあります。それから、途中でいろんなバリエーションが付いてきてまして、川柳だとか俳句とかいろんなものが入ってくるんですが、そうするとどうしても横組みではまずいということで、縦組みの必要性がかられて70年あたりから両方、縦組みと横組み。それで横組みの場合は、国際ロータリーの指定記事が主に中心。縦組みは皆さんからの投稿記事が中心となって発刊されてきました。そういう意味で歴史あるロータリーでございます。それでこの編集長が6人しかいないんですよ。すごい力作でありまして、中身も充実しております。まとめだけさせていただきます。この「ロータリーの友」が一番楽しみにしているのが「パズルdeロータリー」というのがあるんですね。これでいくと皆さんのお手元でいくと53ページにあります。これは今日は数字のやつですが、これがローマ字であったり数字であったり片仮名であったり、そういうことで埋め込んでいって最後に答えがロータリーに関連することが答えになっておりますね。これ毎月考えるのは本当に大変だと思うんですが、これ私楽しみにしております大体1時間くらいでできますので、皆さんも何かの折に傍に置いてご活用いただければと思います。いろんな「ロータリーの友」の楽しみ方があると思いますので、一つ皆さんにもその編集委員の心意気を感じて「ロータリーの友」を一読いただければと思います。簡単ですが、挨拶に代えさせていただきます。

#### ○金田昇会員



皆さん、こんにちは。まず初めに、お断りしておいてお詫びというか、今日卓話をやれということをお話を2週間前に言われたらいいんですけど、ぼっとこう忘れてました。なんの準備もしてないでここにきて何か喋れというお話で、「ロータリーの友」についてというお話をしろというふうなことでしたが、今ほどの安部パスト会長のほうから「ロータリーの友」について簡単な豆知識というお話していただきましたので、あと今まで何度も「ロータリーの友」についてこんなふうなことですよという話は沢山聞いていますので、ここであえてそれについてお話することもないんですけども。実はちょっと「ロータリーの友」から少し離れた話になります。先だって、県南分区のパストガバナー補佐会議と会長幹事会というのが矢吹で開催されまして、その席上ですね次年度のガバナー補佐をやることになりました。ご

推薦いただいてやることになりました。やりたいやりたくないということではなく、是非そういうふうなチャンスというか機会がありまして、皆さんからのご期待もあると思いますのでしっかりと、西クラブでは4人目のガバナー補佐ということになるようです。前の先代と3名の方(益田森治、林利勝、吉成清志)の名を汚さないように、それよりもしっかりとできるようにやっていきたいなという思いがあります。そんなことを考えながら、私は浅学非才なんです。ロータリーとは何ぞやなんていうことも、人の前で話せるようなこともないですし、ロータリーの仕組みとかいろんな事について知識もないですし、今までの活動の経歴も少ないです。今ちょっとこう見てみますと入会以来25年経ちました。25年経って25年分の12か月分の「ロータリーの友」をいただいて、1冊あたり大体80ページくらいありますので、2万4千ページもの「ロータリーの友」のページ数があるうちの果たしてそのくらい読んだらうかと思えば、本当に少ない数しか読んでなかったなと思います。ここにきてロータリーの知識、ロータリアンとしてしっかりとやっていかなきゃいけないと思って3年前ですか、山口会長が会長を引き受けた時に過去3年分の「ロータリーの友」を全部読んで、ロータリーの知識を再確認したという話を聞いて素晴らしいなと思いました。私もここロータリーに入ってから「ロータリーの友」を全部スクラップというか段ボール箱に入れて取っておりますので、過去の分をしっかりと読みながらロータリーの知識をそこから得、またロータリアンの心構えというものも含めて勉強したいなというふうに思っています。「ロータリーの友」の雑誌広報委員長もやったことあるんですが、その場で感心したのが毎年12冊、10年で120冊以上貰ってるのに、大体横組みの6ページは必ず同じこと、「ロータリーとは」ということと、「ロータリーの目的」「四つのテスト」これは必ず書いてあります。毎回毎回これを書かなきゃなんないというか、書いてある意味というものを感じて、必ずこれは何回読んでもいいと思うので、毎回ここには目を通すようにしたいなというふうに思いました。それと同時に、いろんな縦組み横組み自分で雑誌広報委員長の時は読んで見どころ読みどころをご紹介してたんですが、今度はそういう観点ではなく知識として拾い上げながらいきたいなと思ってます。昨今、どうしても情報を得るのにはビジュアルなところが多くて、活字を読むという習慣が少なくなりましたし、字を書くということも少なくなりましたので、是非これを機会に活字をしっかりと読んで読めない漢字はちゃんと自分で調べて読めるようにし、また書けるように勉強して、西クラブの名に恥じないようなそういうふうなガバナー補佐を務められたらなというふうな思いで「ロータリーの友」との付き合い方を考えている昨今です。そういう意味で、ロータリー歴の長い方、それから入会年度の短い方を含めて、もう一度「ロータリーの友」に見直しに対する接し方というものをもう一度考えていただけたらありがたいなというふうに思います。ですから、私もそうなんですけどこれ持って帰ると必ず書棚とか、私ロータリアンの専用のレターケースがありまして「ロータリーの友」を入れる棚がありまして、そこにとんとんと入れちゃうんですね。読みもしないでまず入れちゃうという。そのうち読むだろうというふうに思ってたんですが、こういうことなので必ず読む読まないは別にしてデスク机の上に置いておく。それによってばらばらと見る習慣をつけながら、1ページ目から80ページまでじっくり読むというのはなかなか難しいと思うので、ばらばら読みをしながら少しづつ勉強

していきたいなというふうに思います。ここにおいて「ロータリーの友」からの知識と情報というのをしっかり取れば、先程、遠藤ガバナー補佐がロータリーの2530地区の福島系譜、間違ってますよというふうなお話をいただきました。間違ってるかどうかということもきちっと検証しなきゃならないんですけど、情報っていつか少しづつ少しづつずれてきて、最後にはあれって思うような二世三代経つと全然違う歴史観だったり歴史になってたりします。こういうものをないように記録と記憶をしっかりとするためにも、この「ロータリーの友」は活用できるのかなと思いますので、是非皆さんにも「ロータリーの友」を読む、一番読まれないベストセラーと言われる本のかなと聞いてみますけども、それでもベストセラーであるんですから、しっかり皆さん読んでください。それと昔ちょっとやったことがある方思い出していただいて、「ロータリーの友」を余った雑誌を金融機関の待合室に置いたりとかいうような活動をちょっとだけやったことが思い出されます。できればいろんな広報活動だったり、イメージアップのための活動とかそういうのにも役立つと思うので、もう一度こういう「ロータリーの友」をロータリアン以外の方にも読んでいただけるような仕組み作りができればいいなと思います。決して新しいのを配る必要はないので、メンバーが読み終わったやつをどこかに置くとか、会社の片隅に置いておくとか、自宅でも奥様とかご家族のいる所にぼんと置いておくと、うちの父ちゃんロータリーって何なんだということを理解していただけることになるのかなと思います。長くなりましたが「ロータリーの友」、とても活用の仕方によっては有効な手段となりますので是非ご活用いただけるように、また私自身もこれをしっかり活用していきたいなと思いましたのでお話をさせていただきました。ありがとうございました。

#### ○村上堅二委員長



皆さん、こんにちは。今年度、雑誌広報委員会の委員長を承っております村上と申します。よろしくお願ひします。今回、担当例会ということで何かお話をしなきゃと思っていたんですけど、もともと「ロータリーの友」の大切さを知るためには何かということ考えたんですけども、ロータリー自体をもう一度ちゃんと知ることが必要なのかなと思いました。それで今日は用紙のほうは机のほうに用意させていただきました。ロータリーの仕組み、ロータリーの定義等々をお持ちしてあります。ロータリーの仕組みというのは、国際ロータリー、ロータリー財団、クラブの三本の柱で支えられておりますということでした。非常に今までちょっとわからなかったんですけども、何故日本のガバナーはいないのか。地区のガバナーはいても日本のガバナーはいないということ、皆さんわかっていると思うんですが私ちょっとわからなかったの、何故ガバナーがいないんでしょうというふうに、実はちょっとこの間電話で確認しました。他の青年会議所とか青年部とかいろんな会は必ず日本の会長がいます。このロータリーに関しては日本の会長というのがいないのは何故ですかという話を聞いた時に、その事務局のほうで言われた言葉は一つで、皆さん会員全員が平等の立場であるので組織はいらないんです。変な話ですけど、組織はいらない形もちろん今組織はあるんですけど、その組織自体はいろんな事務作業とかを処理するためにできた組織であると。あくまでも皆さんと

世界のロータリー、皆さん同じ立場で平等であるんですと。もちろん中には年齢の高い方は敬うとか、そういったことはもちろん必要ですけども、基本的には会員が全員平等であり上下関係がないと。ですから組織はないんですというふうな返答でありました。ちょっと私もこの辺がどうなのかなと思ってたんですけど、ガバナーというのは略としてガバナンスをする人。ガバナンスをするという形になると定義的には統括をするとかそういった意味合いになるわけですけども、日本の事務局で言っているのはお世話をする人ということです。あくまでも統治とか、いろんな命令形態を作るとかそういうのじゃなくて、あくまでも皆さんの会、この地区をお世話をする人をガバナーと言います。ですから、クラブの会長はクラブリーダーであってガバナーと同じようにクラブをお世話する人。各地区の委員長はその委員に対してのお世話をする人。ですから、あくまでも皆さんをお世話をする人がトップであると。ですから、必ずそのガバナーというのは皆さんの信頼があり尊敬される人がガバナーになるべきなんです。それがそのガバナーという形のものでよと教わりました。これがまだはっきりとしてないんですけど、そのガバナーとか日本のガバナーというのはその組織的にはないんですけども、あくまでも皆さん尊敬される方を敬って対応する形は必要ですよという話がありました。そう考えると結局「四つのテスト」もそうですけども、すべて皆さんが平等であるという立場の中で考えれば、こういった内容が出るのだなというように非常に感じるものがありました。ロータリーの定義というのは、ロータリーは世界中の事業及び専門職従事者からなる国際的組織で人道的奉仕活動を行い、あらゆる職業における高い道徳的水準を推奨し、世界中で親睦や平和を築くために助力しているということがロータリーと。これをロータリークラブとは何ですかという時はこの言葉を言えばいいんです。なかなか私もいろんな意味で初めていろんな形のもの調べた時にわかることがあって、「ロータリーの友」というのはその中で唯一皆さんとを繋ぐ雑誌という形になると思います。横組みに関してはRIからのいろんなロータリーの話があって、縦組みのほうは地域の皆さんの親睦を深めるようなものになっております。そういう意味では、やはりロータリーに入ったという形になった時に、ロータリーとは何かということは今お話したとおりなんですけども、その中でロータリーをよく理解するためにはやっぱり「ロータリーの友」というものをきちんと熟読することが必要なのかなと今回しみじみ思いました。私も今回、雑誌広報という形になったので、皆さんよりも1週間早く実は「ロータリーの友」が来ます。いろんな意味で見させてもらって随分正直な話を言うと、このコロナから変わってきてます内容は、非常に見ごたえがあるような内容になってきております。是非、皆さん楽しんでいただければと思います。本日2名の安部先生と金田先生の二人でいろんなお話をさせていただいたんですけど、やはり雑誌広報委員長で先に皆さんよりも「ロータリーの友」を見るというのはちょっと優越感があると、そういった意味では非常に楽しかったと思いますけども。ちょっと簡単ではありますが、そんな形で今回は担当例会を終了させていただきます。

○吉野敬之会長



なんか時間が随分余ったということで、実は朝、遠藤さんからお話を頂戴した時に、今日はちょっとお伝えしたいことがあるんだとお話頂戴した時に、10分ほど喋らせていただきたいとご依頼いただいたのですが、私どもの第一例会は非常にボリュームが多くて10分はちょっと難しいので5分をお願いできませんかと私が言ったにもかかわらず10分も余ってしまったということで、大変申し訳ございませんでした。今、雑誌広報委員会の皆さんのお話を聞いて私は非常にびっくりしたといいますか、すごいなと思っていました。今日のプログラムを発表するにあたり、皆さんがきちんと準備、まあ昇ちゃんには知らされてなかったとかあれでしたけど、昇さんの場合はバストガバナー補佐決定の件もあってあれでしたけど、本当に安部先生と村上委員長がしっかりと勉強した上で自分の意見を併せ持った中できちんと発表されるなというのを感じて非常に感動いたしました。割とということもないですけど、中には自分の担当だからちょこちょこ話をしてみたいな感じの時も長い間、私も14年もいるので感じましたが、非常にその中でも今回の雑誌広報委員会の担当例会は非常に皆さん方が勉強して、何をきちんと伝えるべきかということを確認した中で開催していただいたなと本当に思いました。ありがとうございます。ここにも若干関わるんですが、せっかくですと皆さん方にお示ししてますホームミーティングの課題ということで、二つ皆さんのほうに議題として提案させていただきました。一つは、35周年事業として何か皆さん方がやりたいことはございませんかというお話を皆さんでいろいろしていただきたいなということが一つでございます。それともう一つ、こちらがある意味本題になろうかと思うんですが、現在から未来に向けて皆さんが考える白河西ロータリークラブの存在意義やあり方について検討していただきたい。皆さんの自由なご意見を聞かせていただきたいというふうなことでございます。これは本当にロータリーの定義と今お示ししていただいたこの中にも書いてあるのですが、先程、村上委員長がお読みになった部分であります、中段のあたりでロータリーは世界中の事業及び専門職従事者からなる組織で人道的奉仕活動を行い云々という定義がここに示されておりますが、じゃあこの定義を私たちがロータリアンとして別な方を勧誘する時に説明できますかという話なんです。説明してこれで入る人がいますかという話なんです。私たちはロータリークラブという傘の下の中で白河西というクラブを作っているのは十分承知しております。ただ、RIをはじめとするロータリークラブが公式的にといいますか全体的にこういう方向に向かっている、こういうふうになっているんだよということは私も重々承知してますし、今年会長になりましてそういったものを目指すべきところというのを理解しているところではございますが、実際問題今年の石黒ガバナーが目指している会員拡大増強というふうなお話を考えた時に、その二つって相いれるのかなと。こんなとか言葉遣い悪いですね、こういう高邁な思想をお伝えして果たして新入会員がそりゃいいね、世界の為に頑張ろうねと手を取り合ってくれるかと思うと、正直僕はそうは思わないんですよ。やっぱり、どぶ板ですけど今日いらっしやらないので一応I先生と言いますか、I先生が飲み屋で俺が誘ってるのに入らねえってお前何回目だと思ってんだと、そろそろお前入らなと本当にお前仲間外れになるよとか、そんな中で入ってみたら

仲間ができて結構住みよくなって、ああ楽しいじゃん、野球愛好会に行ったり、ゴルフ愛好会に行ったり、いろんな先輩方のいろんなお話を聞いてみたら、ああ結構良かったなと、だから長く続いているというような、そういった形が実際の現場であり増強拡大のベースだと思うんです。これ西クラブだけじゃなくて、多分他のクラブさんも皆さんそういうことだと思うんですよ。だから、本質的な部分をもう一度自分たちで見直して、優先順位とは言わないですけどそういうものをしっかりと私はここで明確にしていければいいなということで、今年の年度重点計画の中に据えさせていただきました。やっぱり全体的にはロータリークラブとして社会的な責任、意義を全うすること、これも一つ大事です。ただ、その兵隊がいなければやはり進んではいけない。じゃあその兵隊を集めるために、この隊はどんな魅力があるんですか。やっぱり皆さんに魅力があるねこの会はといわれる会にするために、実際に今所属している私たちがどんな魅力が本当にあるのか、それをフランクにお話してほしいし、できれば年度内にそういったものを明示できるような形ができればいいなという思いがありまして、年次計画書の中に重点計画にさせていただきましたし、今回のテーマ2でそのような決め方をさせていただきました。恐竜の話って割とするんですけど、恐竜は何故滅びたかというお話がありますが、いろんな説はあります。ただ、一番有力なのはやっぱりその環境に順応できなかったからといわれてるんですね。それは大枠の意味で当たってると思います。ロータリークラブであつたりいろんな団体ございますが、やはり時代に合わせた形、時代に沿ったものに変容していくことは必ず大事だと思います。もしかすると、今年は先程、安部会員がおっしゃったように、これだけ長く続いてきた「ロータリーの友」が合併号を出した。東日本大震災ですら出続けたものが、今年は合併号が出たよと。それぐらいコロナというのは世界中、ましてや日本にもインパクトの強いような、であればその時代に沿った形にまた私たちが変わっていくことが今非常に求められているいい機会なのかなんていうことを思いまして、このような議題を作らせていただき、テーマをあげさせていただきました。もう開催済みの方もいらっしやるかと思うんですが、是非これを皆さん喧々譁々うちの今年の会長は訳の分からないことばかり言ってるなと、破滅的なことを言ってるなと含めていろんなご意見を戦わせていただければ非常に嬉しく思いますということで、ちょうど大体時間となりましたので以上とさせていただきます。今日は本当に雑誌広報委員会の皆さん、ありがとうございます。

○金田昇会員

すいません。実はガバナー補佐を拜命にあたりまして県南分区幹事をどうしようかということで、一応私会長の時に幹事をやっていたいた諸橋君にやっていただくことになりました。そのほか、最近では分区幹事を何名か、2名3名おくということによっていろんなことできるようです。私も2名ないし3名の幹事補佐していただく方を決めていかなくちゃいけないんですが、自分で決めるというのではなくて是非金田のためというか分区のためにお手伝いしてあげるよというふうな方がいらっしやいましたら、お声掛けいただけたらなと思ってます。それがある程度の一定期間お声掛けがなければ私のほうからお願いにお伺いすることになりますので、是非お考えいただくと同時にまた指名させていただいた時には快く引き受けていただけたらありがたいと思います。